

土 木 統 計 資 料 V

国内主要資材生産高 (商工省調査統計局)

Table with 12 columns: 年月, 原油, 加ス, 鋳鉄, 釘, 鋼金, 電線鋼, 電線, 工用鋼, 工用鋼, 鋼板, 鋼管. Rows show monthly production data from 1952 to 1953.

国内電力需給高 (商工省電力局)

100万KWH

Table with 10 columns: 年月, 水力, 火力, 計, 水力, 火力, 計, 水力, 火力, 計. Rows show monthly electricity supply and demand data from 1952 to 1953.

国内石炭需給高 (石炭廳)

1000ton

Table with 10 columns: 年月, 出炭量, 運輸, 電力, 鉱業, 窯業, 窯業, 窯業, 窯業, 窯業. Rows show monthly coal supply and demand data from 1952 to 1953.

學 會 記 事

新理事 理事兼常議員鈴木信孝氏は四國鉄道局施設部長に栄轉のため辞任、後任理事には常議員会の選挙の結果、國鉄技師長付北村市太郎氏が、後任常議員には早大教授青木楠男氏が夫々就任した。

學士院會員 学会では6月8日理事会に於て、日本學士院會員候補者3名を推薦したが、今回東京大学名譽教授、工学博士田中豊氏が目出たく日本學士院會員に當選された。

關西支部 JREA 大阪支部と共催でコンクリート示方書講習会が9月26~29日の4日間、大阪鉄道局會議

室に於て行われた。講師は京大教授近藤泰夫、國鉄技師官仁杉巖、建設省技官谷藤正三、日發技官関慎吾の4氏で、近畿2府4縣より参集した聽講者は300余名を数える盛會であつた。

土質委員會 10月1日午後1時より國鉄8階映写室に於て日本土質基礎工學委員會の發會式が參會者50余名を得て行われ、開會の辭、経過報告、規約案審議、常任委員及び委員長選出等があり事務所を土木学会に置く事になった。役員は次の通りである。

委員長 岩沢 忠 恭
土木學會 吉田 徳次郎、岩沢 忠恭、松村 孫治、田中 茂美、立花 次郎、正子 重三、青木 楠男、当山 道三、神谷 真吉、星 藤和、最上 武雄、建築學會 吉田 亨二、武藤 清、小野 和夫、保岡 豊、吉見 秀雄、水原 旭、南 和夫、北沢 五郎、谷口 忠、内藤 多仲、竹山謙三郎

中國四國支部 第1回學術講演会が10月8、9の両日山口大学各教室に於て開催されたが、講演者36名、參會者120余名の多きを数え、種々貴重な研究論文の發表が行われた。講演者及び講演題目は次の通りである。

10月8日午前9時
開會の辭 末松 栄 会長祝辭 仁杉 巖
福内 大正: 宇部港石炭積出施設について
渡辺幸三郎: セメントの風化に関する研究
市原 賀: 道路補修用簡易ドラグについて
中安 米藏: 計画洪水量の算定法について
村田 良平: 宇野水陸連絡設備工事について
佐藤 智之: 沈船防波堤について
仁杉 巖: コンクリート標準示方書の改正要旨について
合田 健: 薄層流について
小田 英一: 廣島市内の2,3の橋梁設計について
久保田敬一: 堤体を通る透過水の自由流線に関する理論
永井莊七郎: 海岸の漂砂について
篠原 謹爾: 管路の設計に関する基礎問題
石原藤次郎: 最近における我國河川工事上の基礎的諸問題

10月9日午前9時
深谷 克海: 地方綜合開発の概念について
加賀美一二三: セメントペースト及びモルタルの凝結硬化に対する一考察
鷲崎 文雄: 山口縣における利水事業について
坂田 靜雄: 巖島神社災害復旧工事について
山本 武夫: 日本氣候の永年変化について
林 正典: 山陽本線重軌條更換工事の概況について
山岡 一三: 洪水流量推定公式について
川上 暢夫: 縱桁を繫材と兼用せしめる繫拱橋
高野 俊介: コンクリートの分離について
三宅靜太郎: 軟弱地盤に於ける橋梁下部構造の經濟的工法について
河村 協: 鉄筋コンクリートI型バリ橋について
石原 俊: 長壁切羽の炭壁軟化について
大浜 文彦: 電氣養に生おける極間抵抗の予測について
山岡 義人: 樹木の生長機構について (第2報)

講 演 者 及 び 役 員

